



隠れ家のような公園で、子ども達は自由に遊びを創り出し、大人はコーヒーを楽しんでリラックスした時間を過ごす。



左から石川千穂さん、金井玲奈さん、秋田史津香さん、山内亜佐子さん。4人のできることを活かしながら「おむすび食堂」を運営する。



## みんなが集う居場所

玉川学園の住宅街の中にある、自然の地形を活かしたなかよし公園。ここでは、世代間をゆるやかにつなげるみんなの居場所、「おむすび食堂」が開催されている。元々は、子ども食堂として開催されていたが、今年度は冒険あそび場としてニュースタイルで実施されている。

おむすび食堂を運営しているのは、地元で子育てをするお母さん4人組。発起人の秋田さんは、活動のきっかけについてこう語った。

「元々地元で全く知り合いがおらず、会社と家の往復だけでした。子育ての悩み

を相談できる場所もなく、いつも張り詰めていました。PTA活動の中で、自分の知らないところで地域の人たちも子ども達を見守ってくれていたことを知り、私も地域に出ることを決意しました。」

秋田さんが「子どもも大人も楽しくリラックスして過ごせる場があればいいな」と発信したところ、大勢の賛同者が集まった。賛同者の一人、金井さんは、仕事で培った保育のスキルを活かして、おむすび食堂立ち上げ時から一緒に活動してきた。参加者同士の交流、コーヒーショップや地元の飲食店とのコラボなど、様々な方

が活動に関わることによって、次第にまちが繋がっていくを感じているという。

参加者と協力しながら作り上げてきた「おむすび食堂」。山内さんと石川さんは、元々参加者だったが、金井さんに誘われ、運営に関わるようになった。子ども達や大人が楽しむ姿を見て、自分たちも楽しみながら活動しているという。

今では少なくなってしまった多世代交流の場。この場所での経験が、子ども達にとって人生を豊かにする、大人も子どももほっとできる場所であり続けたいと、想いを一つに活動を続けている。